

「日々の理科」(第1882号) 2019,-9,-3

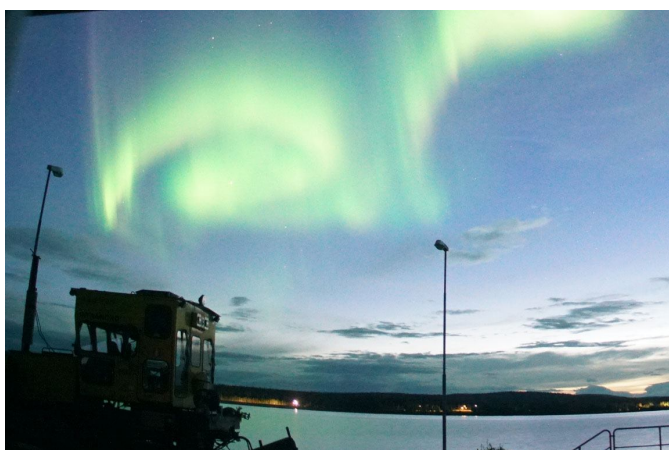
## 「この秋最初のオーロラ(1)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

スウェーデン北部の北極圏(北緯66度33分よりも北の地域)では白夜も終わり、少しずつ夜の時間帯が多くなってきた。早い年では、8月24日前後に、最初のオーロラが観測される。今年は、8月31日に最初のオーロラを観測できた。



最初のオーロラとしては、見事すぎるぐらい美しい。北西の空に渦を巻く淡い緑のカーテンが現れ、北(画面右側)に向かって尾を曳いている。よく見るとオーロラ・カーテンの下面がわずかに桃色に染まっている。これは、太陽からのエネルギーが非常に強い証拠だ。



「観測した」といっても、実際にスウェーデンまで行って撮影したわけではない。ポルユス村(ヨックモック郡)にある、小さな駅舎の中に、デジタル一眼レフカメラを設置させてもらい、東京から遠隔操作で撮影しているのだ。現在カメラは6台設置され、24時間、365日稼働中だ。



ここは「駅」なので、夏の間は列車が来る。気動車(ディーゼルカー)だけが停車する駅としては、世界最北の駅だろう。



列車は「インランズバーナン(内陸鉄道)」といって、南の「エステスンド」から北極圏の「イエリバーレ」までを丸一日かけて走破する。列車といっても1両か2両で、日本のローカル線のようにのどかだ。



真冬になると雪に包まれ、気温は零下40℃にもなることがある。しかしオーロラの舞う姿はすばらしく、「世界一オーロラがよく見える駅」と言っても良いだろう。駅舎のとなりは、ユースホステル(自炊型コテージ)で、徒歩圏内に小さなスーパーもある。